



一つ一つ丁寧にパッケージ作業をする進める学生ら

八学大看護学科ボランティアサークル

一つ一つ心込めて

タオル帽子作り、寄贈

八戸学院大健康医療学部看護学科の学生でつくるボランティアサークル「アース・ワールド」は、入院患者らに活用しても

同サークルでは、がん

の化学療法などを受ける患者に役立ててもらいたいと、学生と教員が協力してタオル帽子作りや寄贈に取り組んでいる。

今回は、学生の実習先となっている八戸赤十字病院、青森労災病院(八戸市)、十和田市立中央病院、三沢市立三沢病院に対し、必要に応じてそれぞれ30〜50個を寄贈する。

このほど、2年生と4年生約10人が集まり、一つ一つ丁寧に心を込めてパッケージしたり、仕上げをしたりして寄贈する準備を進めた。4年の大西由芽さん(21)は「タオル帽子を使ってもらい、少しでも治療に役立ててもらえたら」と笑顔。同サークルを指導する市川裕美子准教授は「がん看護のことを知ってもらい、学生の関心が高まるきっかけになれば」と期待を込める。

(三浦千尋)